

# 基本方針

## ①地域間の連携強化や交流促進を図る 「規格の高い道路」を重点的に整備

課題1.所要時間の短縮や定時性の確保による、産業振興や観光振興の支援

課題2.高速交通ネットワークや大型プロジェクトとの連携

課題3.道路災害の未然防止、災害発生時に重要な役割を果たす緊急輸送道路や代替ルート確保

課題5.半島部・島部における高次救急医療施設などへの搬送時間の短縮

課題7.都市部における交通滞の解消・緩和

課題9.地球温暖化対策としての渋滞緩和や沿道環境への配慮

## ②生活に密着した道路の整備 ・維持管理を計画的に推進

課題4.歩行者や通行車両の安全・安心な移動の確保

課題6.既存ストックを荒廃させない適切な維持管理、維持補修費用の抑制・平準化

課題8.離島部などの日常生活等における利便性向上

課題10.自然景観や街並景観への配慮

産業や地域が輝く活力満ちあふれた長崎県の実現  
(企業立地促進・物流効率化・観光の振興など)

人が輝く長崎県の実現  
(安全安心な暮らしの確保など)

# 課題1：所要時間の短縮や定時性の確保による、産業振興や観光振興の支援

## 【半島部などの現状】

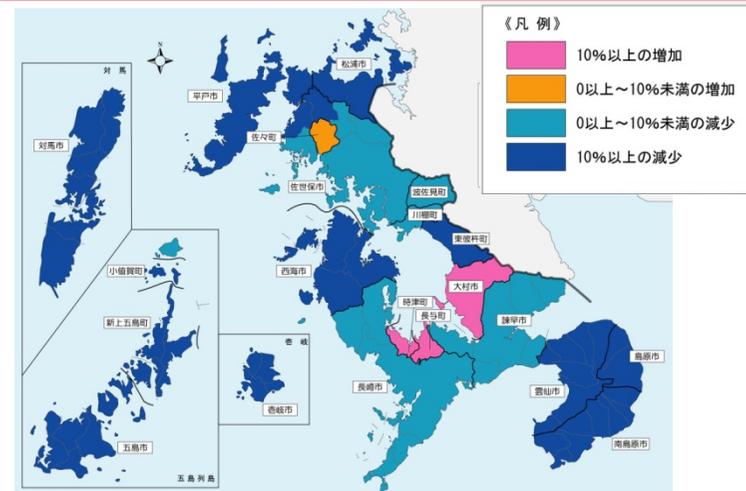
- 人口・面積の多くを占める重要な地域
- 人口減少が進み、ほとんどが過疎地域に指定
- 全国有数の農水産品の生産地、質の高い観光資源が豊富
- 高規格幹線道路や地域高規格道路の整備が遅れており、高速交通ネットワークから取り残された状況
- 高速等ICから多くの時間を要することが、産業や観光の振興、日常生活の妨げ
- 有効求人倍率が低く、主要な第1次産業も低迷するなど、地域間格差が生じ、都市部に比べ地域活力が低い



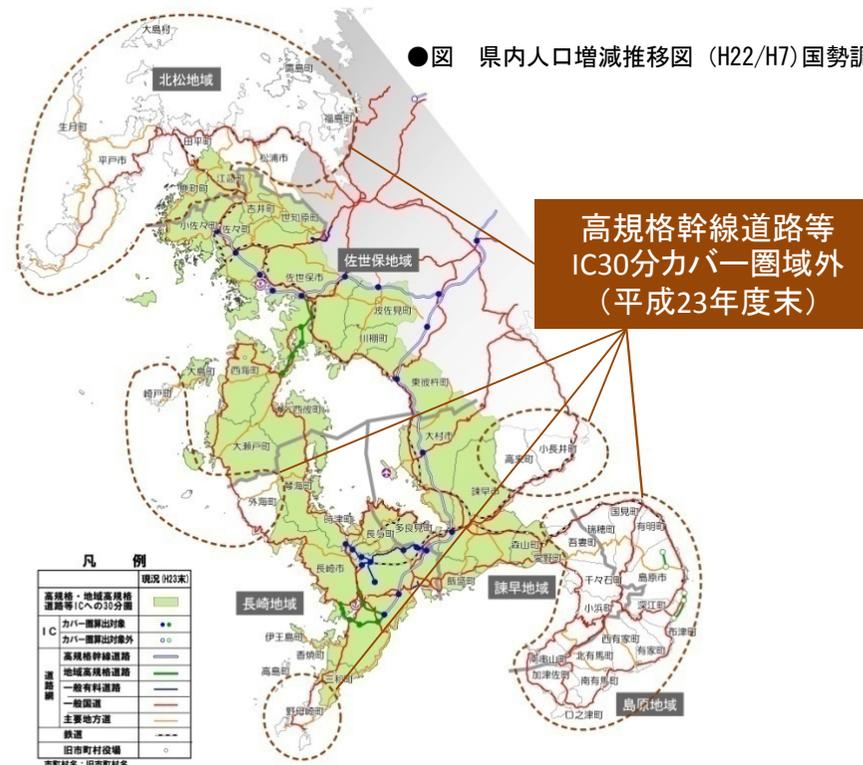
県土全体の発展を支える土台づくり



所要時間の短縮や定時性の確保による、産業振興や観光振興の支援

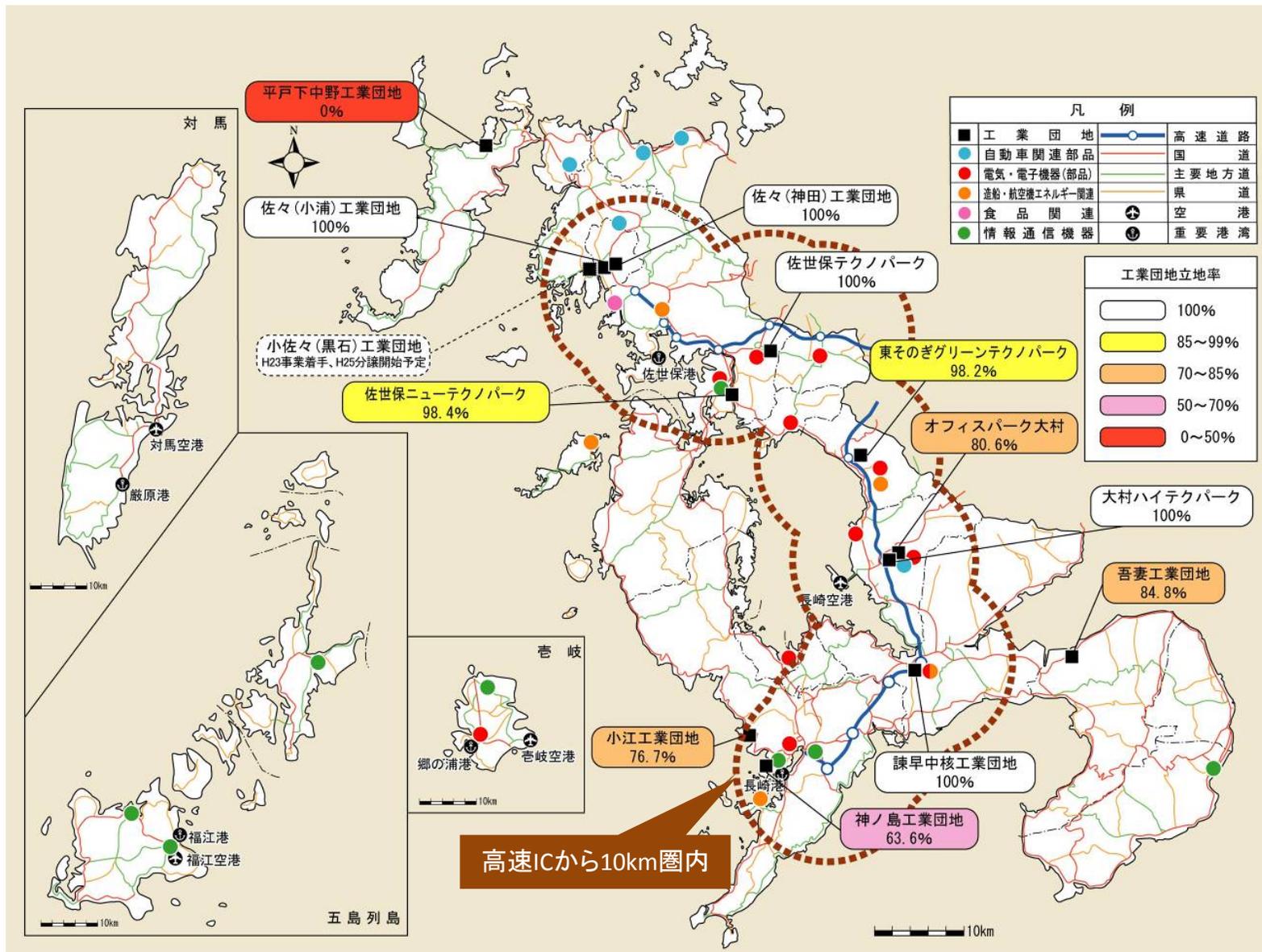


● 図 県内人口増減推移図 (H22/H7) 国勢調査



● 図 高規格幹線道路等IC30分カバー圏域 (H23年度末時点)

# 課題1：所要時間の短縮や定時性の確保による、産業振興や観光振興の支援



● 図 県内の企業立地動向(H20.3末時点)  
資料：(財)長崎県産業振興財団

## 課題2：高速交通ネットワークや大型プロジェクトとの連携

### 【都市開発と都市間競争の現状】

- 人口減少時代の中、新幹線鹿児島ルートが開通するなど、**厳しい都市間競争が想定**
- 个性的で魅力のあるまちづくりをすすめる、**都市の競争力を高める必要がある**
- 本県でも九州新幹線西九州ルートや上海航路をなどのプロジェクトが進行し、その効果を広域的・恒久的なものとする必要がある



都市間競争時代における  
生き残りへの対応



高速交通ネットワークや  
大型プロジェクトとの連携

### 長崎港における長期構想全体像



# 課題3：道路災害の未然防止、緊急輸送道路や代替ルート確保

## 【自然災害の現状】

- 台風や豪雨による災害が頻発、雲仙普賢岳など危険箇所もあり、**通行止めや事前通行規制、集落の孤立**が発生
- 県内道路には防災対策を必要とする箇所や、災害発生時の**緊急輸送道路に耐震補強対策の検討が必要な橋梁**が存在
- 近年はゲリラ豪雨などの災害リスクも高まっており、東日本大震災のように**稀な確率で発生する巨大災害への対応**も問題



激化する自然災害への対応

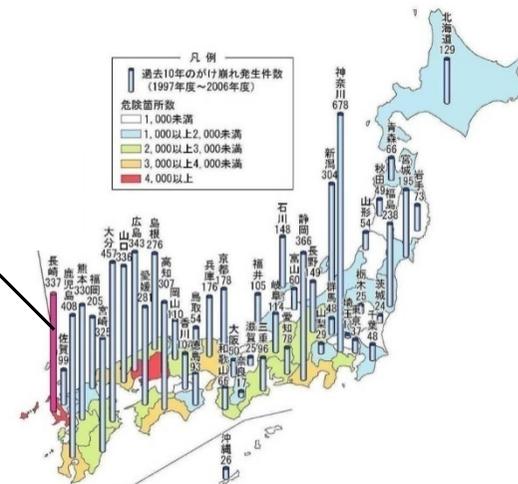


道路災害の未然防止、緊急輸送道路や代替ルートの確保

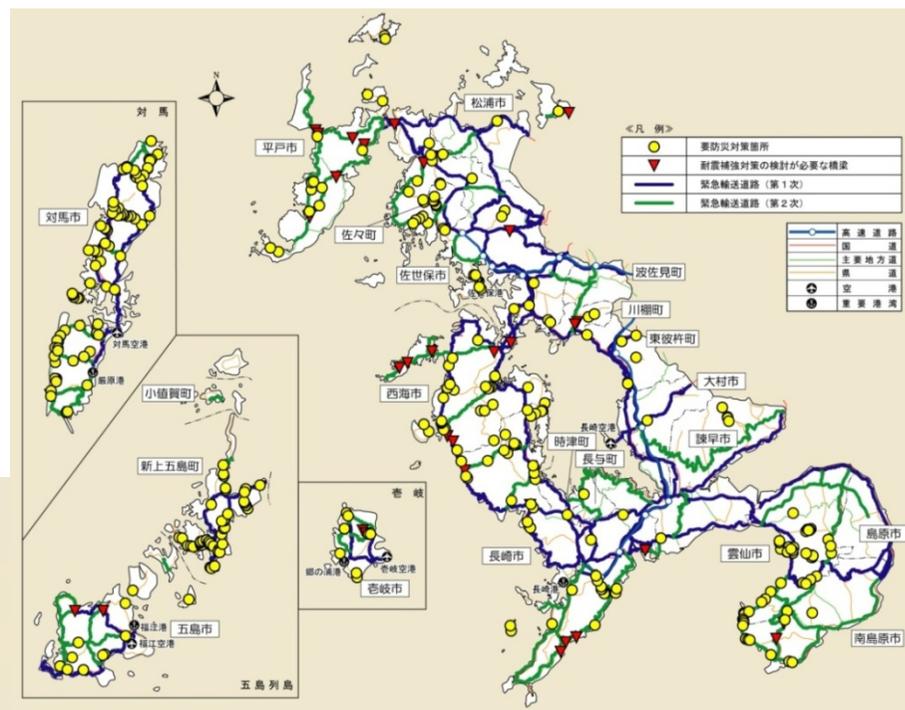


## がけ崩れ発生件数

長崎県  
337件/10年  
(全国6位)



● 図 全国の過去10年間(H9～H18)のがけ崩れ発生件数  
資料：全国地すべり崖崩れ対策協議会



● 図 緊急輸送道路と要防災対策箇所 (H23年度末)

# 課題5：半島部・離島部における高次救急医療施設などへの搬送時間の短縮

## 【医療サービスの現状】

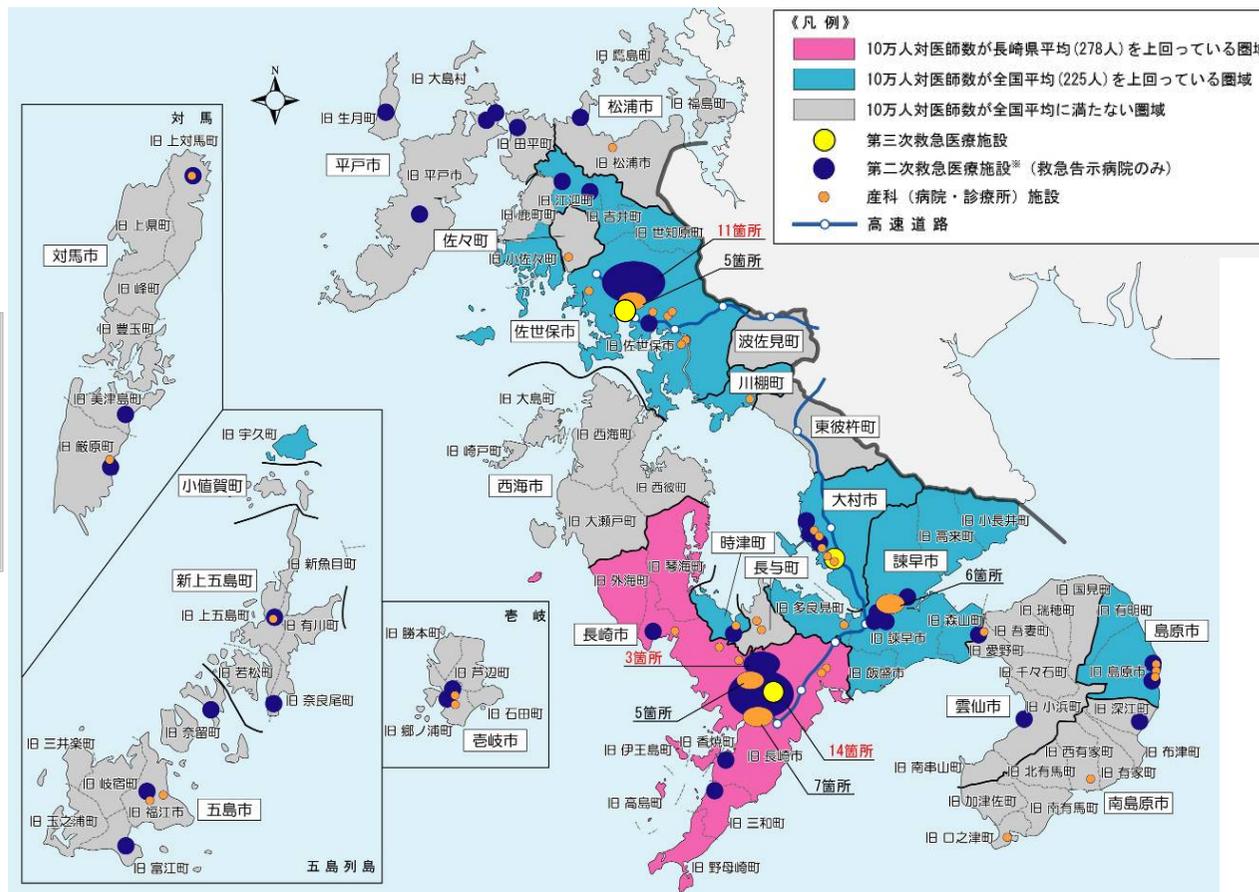
- 本県の高齢化は全国より5年早いペースで進行しており、特に離島部では10年早く進行
- 第三次救急医療施設や産科のある病院は都市部に集中
- 本土部では高速道路網を利用した救急搬送が頻繁。大村市の長崎医療センターは年間400回に上る
- 半島部では第三次救急医療施設などへの救急搬送に長時間を要し、離島部では第二次救急医療施設などへの道のりに未改良区間や走りにくい区間が存在

## 救急医療サービスの格差是正

## 半島部・離島部における高次救急医療施設などへの搬送時間の短縮

平戸市民の嘆きを聞いた。2月の子泣き相模。見事に勝ち名乗りを受けた男児に出生した。彼は母親が平戸市南部の自宅から乗用車で佐世保市の病院に向かう途中、車内で生まれてきた。母が陣痛を感じて病院に連絡すると、「1時間経て来なかった」と言われた。「無理です」。自宅からは10分以上経たなかった。佐々町に差し掛かった時、お産が始まった。携帯電話で医師の指示を受けながら父が赤ちゃんと取り上げた。産声を聞いた母は「やっ」と安堵（あなご）した。平戸市に出生した男児は「お産して安産した」と喜ぶ。お産は「お産した」と喜ぶ。

● 図 H22.3.16長崎新聞



● 図 長崎県市町村別10万人対医師数圏域図(平成20年現在・対全国平均)  
資料:【医師数】政府統計 【産科】公益財団法人 日本医療機能評価機構

# 課題7：都市部における交通渋滞の解消・緩和

## 【道路交通の現状】

- 長崎市、佐世保市、諫早市等への自動車交通の集中に伴い、交通渋滞が都市部に集中
- 都市部では環状道路やバイパス等の道路ネットワーク不足や、ボトルネック交差点、踏切などの局所的な問題が存在し、慢性的な渋滞が発生



## 都市部の厳しい交通渋滞への対応



都市部における交通渋滞の  
解消・緩和



【佐世保都市圏】



【長崎都市圏】



【県央都市圏】

●図 都市部のランク別旅行速度 資料：H22道路交通センサス

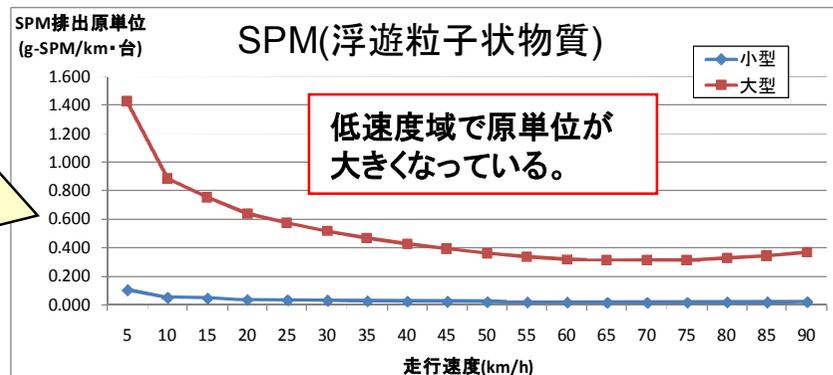
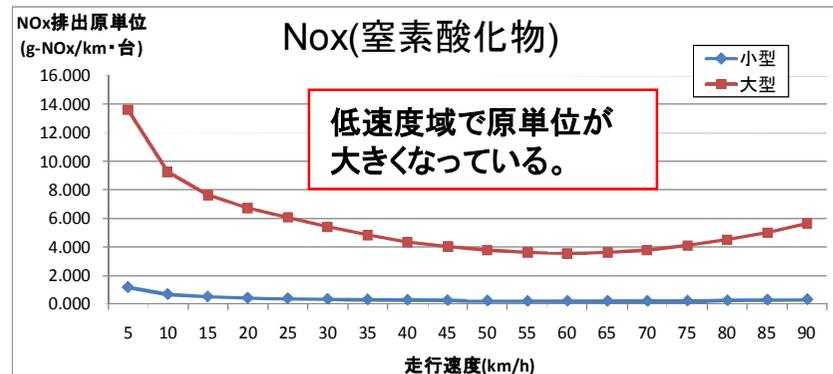
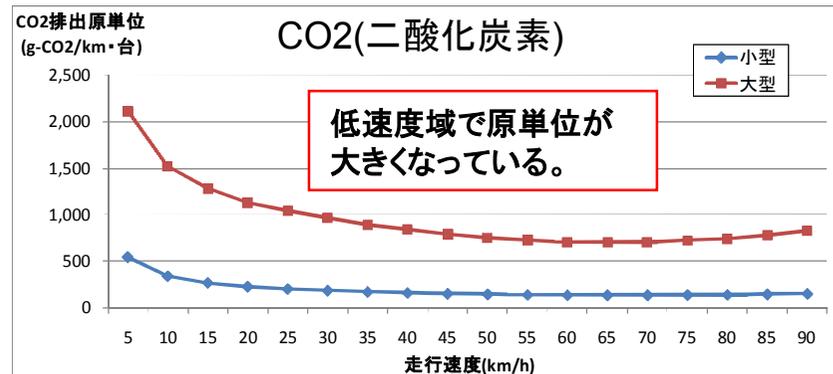
# 課題9：地球温暖化対策としての渋滞緩和や沿道環境への配慮

## 【環境の現状】

- 地球温暖化対策として、運輸部門の約9割を占める**自動車交通の二酸化炭素排出量の抑制**が急務
- 自動車騒音による**環境基準未達成区間**が未だ存在

環境へのさらなる配慮

地球温暖化対策としての渋滞緩和や沿道環境への配慮



● 図 環境指標排出原単位

資料：客観的評価指標の定量的評価指標の算出手法(案)  
平成15年11月25日 事務連絡 国土交通省道路局企画課/都市・地域整備局街路課

**SPM削減効果予測事例**

諫早南バイパス線の整備によりSPMが約5%削減されると予測されている。

検査区間:延長約7km

国道34号

国道57号

諫早IC

長野IC

小、船越町断面